

すぎなみ大人“熟”してる？

J u k u s i t e r u ? T I M E S ' 1 2

平成24年9月5日発行

発刊元：塾熟カンパニー（事務局）

東京都杉並区梅里 1-22-32(社会教育センター内) TEL 3317-6621 FAX 3317-6620

VOL.7

夏から秋へ、ニコニコだがしや楽校はもうすぐ！

9月3日
昼コース



受け身にならず、 主体的に準備しましょう

大雨が降った次の日、夏休み明け6回目の講座が始まった。毎回恒例の受講生による5分間ミニ講座は、今回で4人目。日直の大岸さんからは、秋のだがしや楽校の会場となるニコニコロードの成り立ちについての発表があった。大岸さんの調査によると、「ニコニコロードは元々、明治29年ごろ、この辺りに住んでいた豪商の関口兵蔵が私財を投じて開通した新道であります。『餅い葉屋』の関口が開いたため、『かいば道』と呼ばれ、地元の人に親しまれていたそうです。」とのこと。「秋のだがしや楽校では、無理なく、協力してやろうと思います。」と締めくくった。

車座になって語ろう、夏の思い出

さて、前回の講座からおよそ1ヶ月。小学生で言えば、始業式にあたる今回の講座。まずは車座になって夏の思い出を語り合った。季節柄、「暑くて雨が降らなかったから、野菜が不作だわ。」といった話題や、「休み中に有志で暑気払いを行いました。また集まりたいですね！」といった話、さらに「いつもひとりの家に夏休み中、娘がいるのが不思議な感覚だった。」など、十人十色な夏の思い出が飛び出した。右写真は手作りの折り紙かごに入ったおすそ分けの品のひとつ(ニッキ飴・せんべい: 斉藤昭)。



折り紙とお菓子のおすそ分け

どうする?秋のニコニコだがしや楽校

「この講座の重要な視点として、新しい人との出会いというのがあります。つまり、この講座の面白さは、受講生だけの同じメンバーで完結せず、私たちがてんでんばらばらいろんなものを持ち寄って、へえー、そうなんだ、と地域の方とつながっていくところにあるのではないのでしょうか。」という、学習支援者の松田さんの言葉から、秋のだがしや楽校に向けた話し合いはスタートした。

まずは、10/7と10/21のだがしや楽校のどちらに(または両方)参加できるのか確認した。10/21は会場の東高円寺商店街でフリーマーケットが行われるため、地域の方と関わる良い機会。また、校長(代表)が1人、教頭(副代表)の3人が決定!校長となった安野さんは、「なったからには、精一杯頑張ります。そのためにはみなさんのご協力あってこそです。」と、受講生それぞれの持ち味を活かすだがしや楽校にする、との意気込み。また、役割分担をそれぞれ割り振った(下記参照)。今後は、分担して、動いていく。

今回の準備はここまで。今回を合わせて3回の講座を準備・話し合いの回として行う。なにはともあれ、まずはやってみることで、得られるものがあるはずだ。(記事:坂本)

役割分担、決めてみた!

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 【校長】安野 | 【企画】保正、伊藤、上野、斉藤昭、(三宮) |
| 【教頭】大岸、保正、吉田 | 【会計】本田、遠藤、(上野) |
| 【風船先生】深谷 | 【記録】三宮、斉藤香、山本 |
| | 【広報】吉田、植田、松井 |



話し合い風景だよ!

秋のだがしや楽校、考えましょう



日程ってどうなっていたかしら



まずは役割を決めましょうよ



色々な人に宣伝して見に来てもらいたい



もっと人と関わりたい、頑張りましょう



8月29日
夜コース

実際に行く、訊いて見ることで得られる新しい発見と気づき 観察してきた「まちの現場」の発表！

訪問後の「気づき」と「論点」

- ・多世代が何となく集る場が必要
地域医療などのケアや情報交換の場
- ・顔の見えるまちづくり 住民の意見が取り入れやすい
- ・駅の意味を考えよう
- ・荻窪：南北分断問題
- ・地域で高齢者の方を集めるために声をかける方法は？
- ・自分のできる範囲で高齢者の問題を探したい
- ・「自分事」で考える人を増やすには？
これが増えるともっとよい世の中になる！
- ・家庭医が不足している
- ・ケアや医療を地域で支えるには？
- ・地域ケアを地域の人や普通の会社員がもっと理解するには？
- ・杉並や高円寺のよさを伝えるにはどうするか
- ・一人暮らしの人が地域に接点を持ってない
- ・商店街で若手が活躍するには？
- ・文化財の継承と寺社の公共性
区民にとっての意味と持ち主の意味
- ・コミュニケーションは本当に不足しているか？
だとしたら、どんなものがあつたらいいか
- ・若者の孤立死
- ・ものづくりの担い手が減るのは問題
- ・「こうしたらいいのに・・・」
↑↓
「わかっているのにできない！」
うまく参加するためにどういうやり方をすればよいかを考える (広石さんの板書より)



訪問レポートを聞いてみて

夏の間、受講生各自が考える地域の課題に関して現場訪問をし、話を聞いてくる。そんな宿題がでたこの3週間。今回はその発表日である。熱心な現場レポートを聞いて感じたこと。それは、話を聞くことで、自分が思っていたことと違う世界が見えてくることである。さらに、こちら側で見ていた自分が変わり、「自分にできること」を考えるようになる。活動の主語が「自分」になることだ。地域の人皆が、こんな風に当事者として考えられるようになれば、もっとステキな杉並ができる！そう感じられた受講生の発表であった。



広石さんからは・・・

商店街の発展や寺社の文化遺産の継承をレポートし、その対応や様子に感った受講生も。広石さんからは「商店街も寺社も農地も、それは誰のものなのか？と考えると、興味深いです。例えば商店街は地域の交流の場などの公共性の側面も大事。消費的意味合いだけだったら、皆ネットで買い物すればいい。その施設や土地が持つ公共的意味を考える。逆に、公共の施設は地域のためのものと言いながら、住民は関係ないと思っている。これは大切な論点です。」という話も。訪問したことで新たに生まれる課題もある。今回の宿題のためだけでなく、今後もチャンスがあつたら「まずは聞いてみる！」を心がけていくと、きっと新しい何かが見えてくるに違いない。(湊)



今月の大人“塾っ人”

大人塾に参加中の...イカした！大人たちに聞きました！

出身 座右の銘、好きな言葉 自分のつながりPR

吉田 千穂
(ちーちゃん)
熊本県球磨郡
あきらめない
漬物名人、特に梅干し・高菜漬(油炒めが特においしい！種から育てた私の高菜)

山本 すみえ
(すみえさん)
方南1丁目
人生はななめ上方を見て進む。楽しく。広く、浅い知識が沢山あります。何でも手伝いまーす。

笠井 茂樹(シゲ)
神奈川県茅ヶ崎
・心の余裕 ・急がない
・自分事
・商店街のウインドウにアーを
描く集団「カサハラ」代表
・コミュニティ クロッシング ジャパン
(NPO のプロジェクト) コアメン
バー ・webコンサル

木水 友子
東京都青梅市
「一期一会」
西荻まちレストラン
かがやき亭に関わっています。ぜひ遊びにいらしてください



□すぎなみ大人“塾”してる？の発行にあたって□

この新聞は事務局スタッフ松坂・坂本・湊の独断と偏見と多少の事実に基づき作成しております。